

MASLD（代謝機能障害関連脂肪性肝疾患）に対するプラセンタの有効性

金沢医科大学肝胆膵内科学 名誉教授

土島 睦（ツチシマ ムツミ）

座長：川口 光彦（医）川口内科 川口メディカルクリニック 院長

略歴

1985年 金沢医科大学医学部卒業
1987年 金沢医科大学病院研修医修了
金沢医科大学病院消化器内科医員
1992年 金沢医科大学消化器内科学助手
2007年 金沢医科大学消化器治療学学内講師
2008年 金沢医科大学消化器治療学臨床准教授
2014年 金沢医科大学肝胆膵内科学臨床准教授
2016年 金沢医科大学肝胆膵内科学臨床教授
2018年 金沢医科大学肝胆膵内科学教授（講座主任）
2025年 金沢医科大学名誉教授



参加学会

日本内科学会、日本消化器病学会・評議員、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本消化管学会、
日本カプセル内視鏡学会、日本アルコールアディクション医学会・評議員、日本アルコール/薬物医学会・運営委員

近年、肥満や糖尿病、脂質異常症、高血圧などの代謝機能の異常を伴う脂肪肝である代謝機能障害関連脂肪性肝疾患 (metabolic dysfunction associated steatotic liver disease : MASLD)、また、MASLDの中でも肝炎を発症し肝硬変や発癌の発症母地にもなりうる代謝機能障害関連脂肪肝炎 (metabolic dysfunction associated steatohepatitis : MASH)が増加してきている。病態が進行し肝硬変に至った場合は根治的な治療として肝移植しかないのが現状であり、新たな治療薬の開発が望まれている。胎盤抽出物質 (placental extract : PE)は成長因子や栄養素を豊富に含んでおり、組織の修復、組織の再生、免疫調節および細胞増殖に関与することが知られている。そこで脂肪性肝疾患誘発モデルであるSHRSP5/DmcrラットにヒトPEを投与したところ、PEがもつ抗炎症作用、抗酸化作用、肝細胞の再生促進作用によって、脂肪変性や脂肪性肝炎は抑制され、肝障害の軽減、さらに肝線維症から肝硬変への進行を予防する可能性を見出した。さらに、MASLD患者にブタPEを24週間経口投与すると脂肪肝は明らかに改善した。このことからPEはMASLDからMASHへの進展の予防、肝線維化の抑制および肝硬変の進展を予防する極めて有用な治療薬の1つとなりえると考えられた。